



高小だより

津市立高茶屋小学校
令和4(2022)年12月



NO. 1

全国学力・学習状況調査の結果について

6年生対象に行われた全国学力・学習状況調査の結果について、校内で考察しました。今年、国語、算数以外に、3年に1度追加される理科も実施されました。教科調査以外に、児童生徒向け、学校向けの質問紙調査も行われています。児童生徒向けの質問紙調査には、早寝早起きあさごはんなどの基本的な生活習慣を尋ねる質問や、規範意識、自己肯定感などについて尋ねる質問が含まれています。

右の表は、国、三重県、津市の平均正答率を比べたものです。新聞などのマスコミでも報道があったように、今年、県と津市は全国とほぼ同じ水準でした。

	国語	算数	理科
全国	65.6%	63.2%	63.3%
三重県	65	62	63
津市	65	62	62

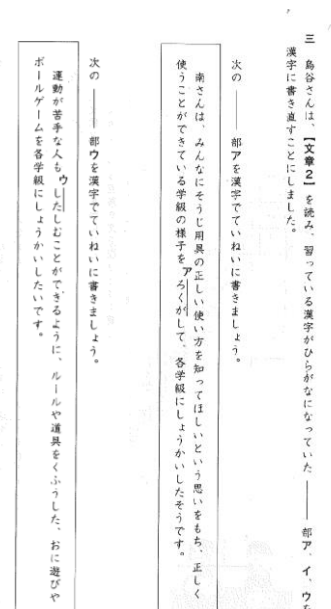
さて、高茶屋小学校の結果ですが、残念ながら津市や三重県の平均には届きませんでした。本調査は、どの教科も高い読解力が求められています。全教科で、「解答時間は十分であったか。」の質問で「十分でなかった」と回答した児童の割合が県や国に比べて多かったです。また、記述で回答する問題にも課題が見られました。これまでの書くことを中心に研究を進めてきたことに加え、今年、全校で対話を大切にしたい授業に力を入れています。相手の言ったことの意図を掴み、それに対して即時的に自分の考えを相手にわかるように伝えていくことで、課題となっている部分の改善に努めたいと思います。言語化したことを文章にできるよう、引き続き、書くことの取り組みもすすめていきたいと思っています。



高茶屋小の特徴 『国語』では

国語は、グループでの話し合いの様子など学校生活の場面を題材にした設問が目立ち、知識と思考力が問われました。

「話し言葉と書き言葉の違いを理解する問題」や話し合いで「必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと、中心を捉える問題」、「登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉える問題」の正答率は高かったです。しかし、これまでも本校の課題であった「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題」、「条件に合わせて記述する問題」は、無回答率も多く、全国平均を下回りました。日頃より文章を書くときに、正しく漢字を使っていく習慣をつけていくことが大切であると考えます。

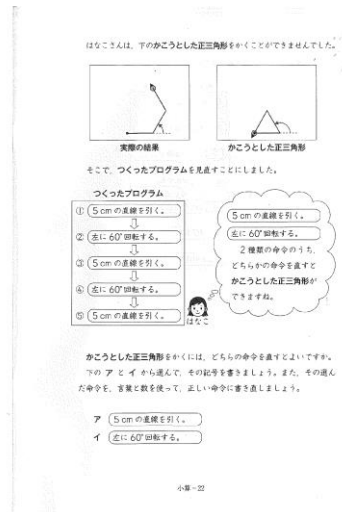
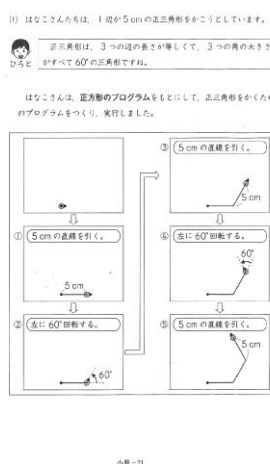


高茶屋小の特徴 『算数』 では

算数は、計算やグラフ、表の読み取りを通じて日常生活の課題を解決させる狙いがある出題が多くみられました。また、プログラミングに関する問題も初出題となりました。

「 1050×4 を計算する問題」は、94.1%の児童が正答し、全国平均を上回りました。しかし、「 85×21 の答えが 1470 より必ず大きくなることを判断するために、85 も 21 も小さくみて計算すること」「果汁が含まれている飲み物の量を半分にしても、果汁の割合は変わらないこと」「示されたプログラムについて、正三角形を書くことができる正しいプログラムに書き直す問題」については正答率が低かったです。

今回の出題傾向からも分かるように、算数で習ったことを、日常生活に結び付け、活用する力が必要です。授業の振り返りにも、生活に使えることを考える習慣をつけていきたいです。



高茶屋小の特徴 『理科』 では



新学習指導要領では、観察を通して身の回りの生物の色や形、大きさなどの差異に気づかせる学習を求めています。こうした視点を踏まえ、提示された情報を分析や解釈することで、自分の考えを持つことができているかどうかを確認する設問が出題されました。特に、観察や実験の結果から、新たに見出した「問題」を発見したり設定したりする出題が新しい傾向でした。

本校の特徴としては、知識・技能の観点で選択式の問題は、ある程度正答率はあるものの、「砂糖水を凍らせた物は、紅茶や水に沈んだという実験結果より、砂糖水ではないほかの水溶液を凍らせた物でも試してみたいこと」をもとに、見出された問題について書く問題」や鏡の実験で、「問題のまとめから、その根拠を結果を基にして書く問題」など、実験結果を分析し、自分の考えを持つことを問われる問題で課題が見られました。授業の中でも、実験結果を分析し、解釈することで、自分の考えでまとめたり、新しく問題を見出したりする活動を大切にしていきたいです。



本調査やみえスタディチェックを通して、子どもたちの学力や学習状況を把握し、全教職員で確かな学力の向上に向けて取り組みを進めていきたいと思えます。ご家庭でも家庭学習の支援等をよろしくお願いいたします。